

令和5年7月19日

報道関係各位

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

リアルタイム土砂災害危険度可視化システムの開発 ～東京都八丈町において評価実験に着手～

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（代表取締役社長：野崎秀則）は、株式会社ハレックス（代表取締役社長：藤岡浩之）との共同開発により、数値標高モデルと気象庁の配信する降水短時間予報から、時々刻々と変化する土砂災害危険度を可視化するシステムを開発し、令和5年7月1日より東京都八丈町において当該システムの評価実験に着手しました。

【背景と課題】

近年豪雨による土砂災害が増加傾向にあり、毎年のように各地で甚大な被害が発生しています。各自治体が作成する土砂災害ハザードマップや、気象庁「キキクル」など土砂災害に関する情報提供も増えてきました。しかし、細かな地形による水の集まりやすさや、雨の降り方など、場所によって異なる危険度の時間変化を知ることは容易ではありません。

【当該システムの基本機能と特徴】

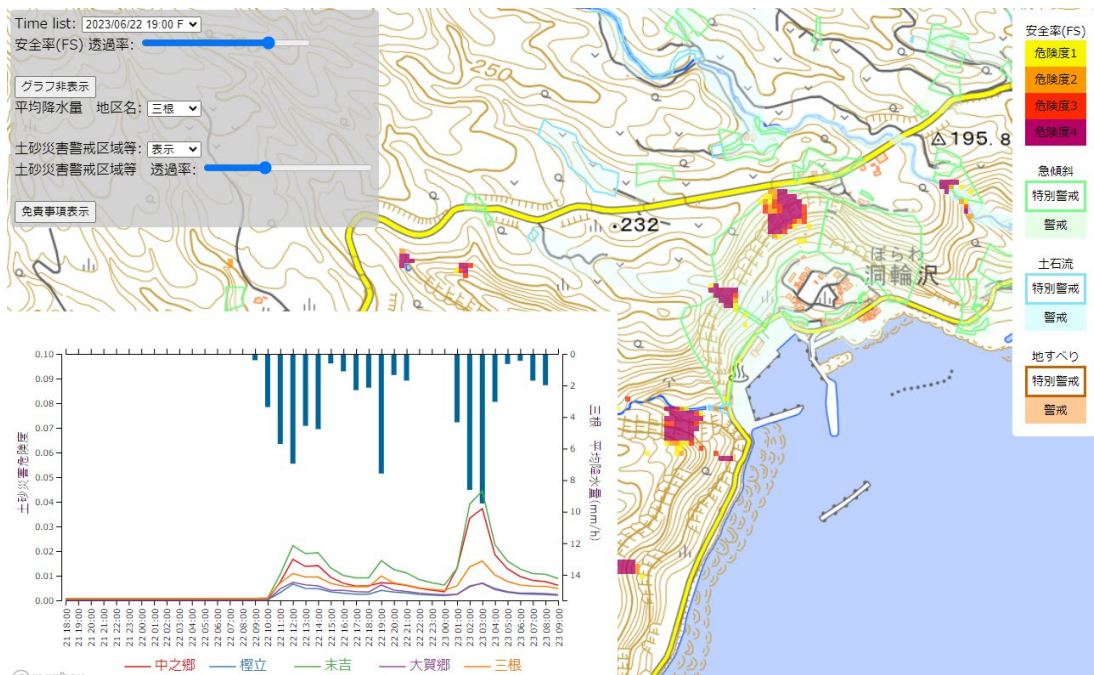
本システムでは、降水短時間予報は1 km メッシュデータ、数値標高モデルは10 m メッシュデータを使用し、これまで可視化できなかった時々刻々と変化する土砂災害発生危険度の高い斜面をより細かく可視化することができます。これにより、地形や雨の降り方の違いにより相対的に危険な斜面を可視化することができます。その特徴は次のとおりです。

- 危険度の評価方法：簡易的な地下水モデルによる水位を用いた斜面安定計算
- 危険度の表示間隔：15時間先までは1時間間隔で可視化
- 防災行政への活用：15時間先までの時々刻々と変化する危険箇所が10 m メッシュ単位で可視化されるため、特に配慮が必要な保全対象に対する直接的な避難の呼びかけなど、きめ細かな防災行政への活用が期待されます。

今後は、八丈町における評価実験の検証事例の蓄積により、より精度の高い予測システムとして発展させて参ります。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL:03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011
URL: <https://www.oriconsul.com/>
統括本部 伊藤・丸山・門司

■ 当該システムにおける表示例



背景図には国土地理院地図を使用

■ 時々刻々と変化する危険度の変化

